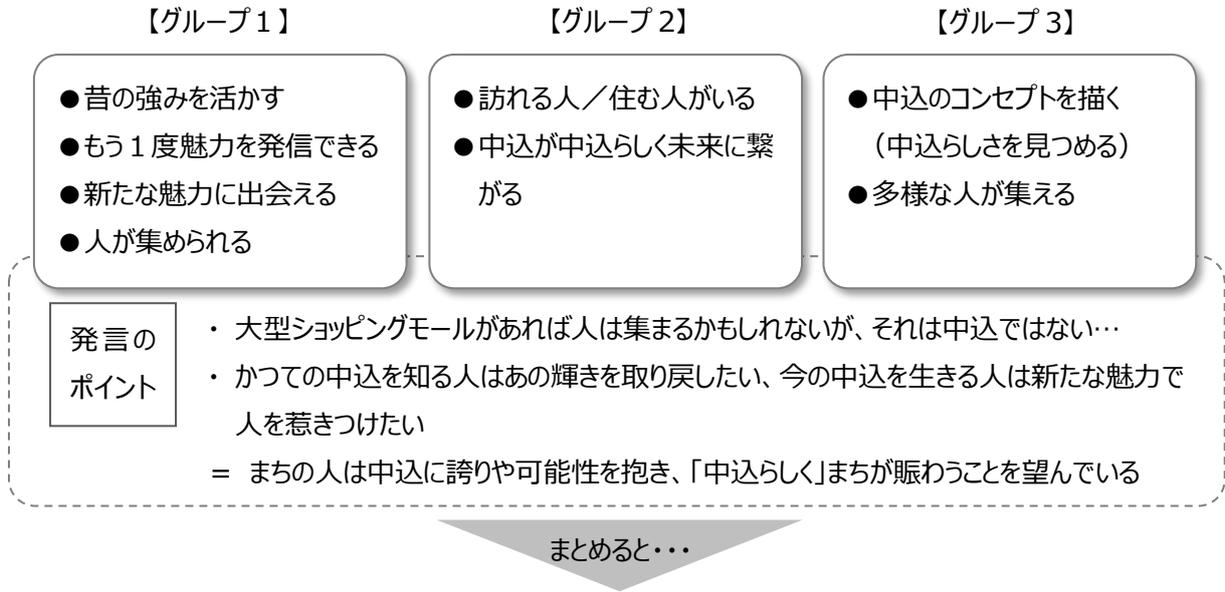


中込地区のまちづくりの方向性について

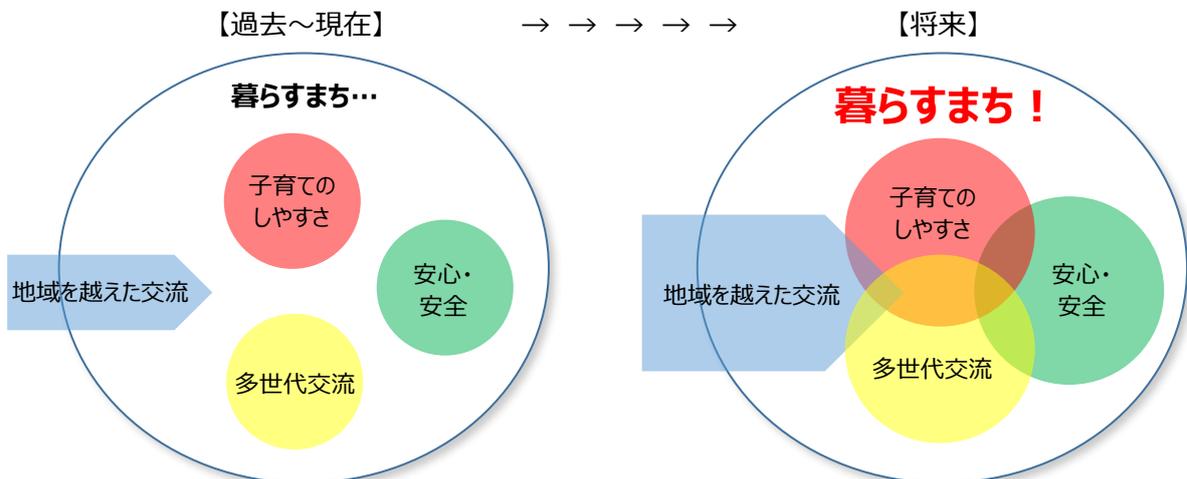
1 各主体間で共有するまちづくりの目的・方向性



- ・ 中込は「商業のまち」である → 人が集まる場所であることは必須
- ・ その中でも、「中込らしく人が集まる」とは何か…
- ・ まちに賑わいがあつた少し昔、ここに集まってきた人はまちに何を感じていたか
→ 目的は人それぞれ（買物？食事？映画？ゲーセン？花火大会？居酒屋？スナック？）だったが、中込に来るだけで心のどこかに漠然としたワクワク感を抱いていたのでは？
- 「ここに来れば何かある！」のワクワク感を取り戻し、かつての人の流れや新しい人の流れを作り出す

2 中込地区まちづくり構想の考え方

(1) 「野沢地区暮らすまち構想」のイメージ



【野沢地区の特徴】

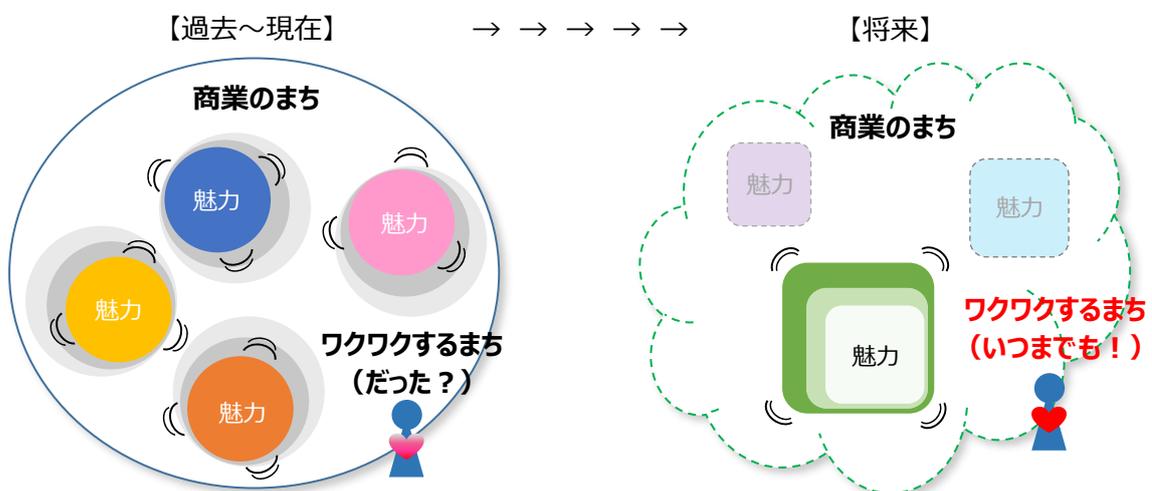
- ・ まちが持つ素養や成立ちから、まちの人が持つイメージが明確だった → 暮らすことに適したまち
- ・ 過去から現在に至るまでのまちにも、暮らすために必要な機能は備えている
→ 将来に向け、これを磨き上げて暮らしやすさをさらに高めていくためのまちづくりを進める
- ・ また、これらの機能は、比較的公共の主導が可能な性格のもの

【構想の構造】

- ・ まちづくりの大きな枠組は固定したまま、1つ1つの機能を膨らませていくイメージ
- ・ 野沢地区の状況からは、このような構想の構造で、多くの主体が同じ方向を向いてまちづくりを行うことができる道標となり得た



(2) 「中込地区まちづくり構想」のイメージ



【中込地区の特徴】

- ・ 人それぞれが様々な魅力を感じられる、まちを訪れる人が共通して心にワクワクを抱けるまちであったが、時代の流れとともに1つ1つの魅力が少しずつ縮小している
- ・ まちが持つ素養や成立ちから「商業のまち」であることを前提としたうえで、それを構成するそれぞれの魅力は、各事業者により、時代に即して変えたり、高めたりすべき性質のもの

【構想の構造（案）】

- ・ 大きな枠組は「商業のまち」であっても、それを構成するものは変化したり、新たに作られたりするので、将来どのようなまちに変わっていくかは不透明 → 将来の姿を構想しづらい、又は極めて総論的なものとなる
- ・ 中込のまちづくりにおいて重要なのは、人がワクワクを抱くまちであり続けること
→ その人の感じ方の部分に着眼していく必要もあるのではないか
- 野沢地区との状況の違いを踏まえ、中込地区の構想では、将来の枠組を描くのではなく、まちを訪れる人がワクワクを抱けることを不変の要素とし、そのために必要なアプローチ（まちづくりをどう進めるか、まちをどう変えていかなど）を描く（アプローチの結果によるまちの将来の姿は不測な部分もあるが、持続可能な形として描く）

